

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

神戸大学

前期日程

科目	生物
----	----

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

標準的な知識を問う問題、定番の論述問題がほとんどであった。教科書範囲を超えるレベルの設問は、ほとんどなかった。昨年度よりずいぶん取り組みやすかったであろう。正答率はあがる一方で、しっかり差のつく問題もあり、バランスがとれていた。論述量について、昨年度より大幅に減少した。今年度は生物基礎からの出題がなかった。

〈特記事項・トピックス〉

実験を組み立てる問題は無かったが、Ⅱで実験操作の意味、実験結果から考察されること、実験結果の理由を問う問題が出題された。字数指定のない短文の問題は小問が2題あった。他の論述は50字程度の字数指定のあるものだった。合計字数については、2024年度：505字、2025年度：710字と増加したが、2026年度：300字程度と減少している。計算問題、描図問題はなく、頻出の遺伝情報や遺伝、モル計算などの出題もなかった。

〈合格への学習対策〉

標準的な問題を、確実に得点することが大切な学習姿勢である。難易度の高い問題では得点差はつかない。教科書の内容を本文だけでなく、コラムや参考、注釈などに書かれていることまで理解し、暗記して、標準レベルの入試問題集を1冊、確実に仕上げるのが大切である。実験における論述問題で差がつくので、学校で行う実験、問題集や模試のなかの実験問題などを通して、実験の目的、仮説、方法、結果、考察などを確認しながら取り組んでほしい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述・選択・論述 (95字)	生物	動物の環境応答 受容器(眼・耳) 神経伝達物質	問2 波長の長さを覚える必要はなく、3種類の錐体細胞と波長の長短を並べ替えられればよい。 問3(1) レチノールとレチナルを誤答しないように気を付ける。 問4 ものを凝視すると黄斑に像が結ばれる。	標準
II	記述・選択・論述 (130字程度)	生物	動物の発生 カエルの発生 分化全能性	問2 (c) 内壁は内胚葉から分化するが、平滑筋は中胚葉から分化する。(d) 皮膚の表皮は外胚葉だが、皮膚の真皮は中胚葉である。明確な指示が必要。 問3~5は論述しにくい。それぞれの問いで、重複なく何を答えるかを明確にする。	やや難
III	記述・選択・論述 (50字)	生物	植物の生殖と発生 重複受精 無胚乳種子 植物の環境応答 光発芽 花芽形成のしくみ	問2 3回の核分裂をそれぞれ体細胞分裂とする。 問3 (a) 無胚乳種子の記述、(b) 種皮は胚珠の周りの珠皮に由来する。子房壁は果皮に分化する。(e) 種子が成熟して乾燥すると、休眠する。 問4(4) 長日植物が花芽形成するのは春から初夏で、低緯度地域に移動すると、暗期が限界暗期より長くなる。	やや易
IV	記述・選択・論述 (20字程度)	生物	進化のしくみ 個体群 種間関係	問3(2) (a) 上位の捕食者が近縁種を捕食し、個体数が減少すると、種間競争が緩和される。(b) 近縁種が保護色を進化させると、天敵に見つかりにくくなり、個体数が増えるので種間競争が激しくなる。(c) 生態的同位種の定義に異なる地域に生息することを入れるかどうかで判断が難しい。(d) フィンチは形質置換によって、摂食するエサの種類が変わり競争が起こりにくくなった。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。